

基準 3 . 教育課程

3 - 1 . 教育目的が教育課程や教育方法等に十分反映されていること .

《 3 - 1 の視点》

- 3 - 1 - 1 建学の精神・大学の基本理念及び学生のニーズや社会的需要に基づき、学部、研究科ごとの教育目的・目標が設定されているか。
- 3 - 1 - 2 教育目的の達成のために、課程別の教育課程の編成方針が適切に設定されているか。
- 3 - 1 - 3 教育目的が教育方法等に十分反映されているか。

(1) 3 - 1 の事実の説明 (現状)

3 - 1 -

- ・ 本学の建学の精神・基本理念・使命・目的を踏まえ、学生や社会のニーズも考慮して、全ての学部・学科及び研究科・専攻の教育目的を下表のように明確に設定している。

表 3 - 1 - 1 各学部・学科の教育目的

| 学部・学科 | 教育目的 |
|-----------|--|
| 工学部 | 個の人間形成に必要な教養、時代を超えた普遍的な幅広い基礎知識、専門知識と実務知識ならびにその応用力を自ら学ぶことによって修得し、発想を現実のものにするための複眼的な論理的思考法を訓練することにより、地域社会を中心にして、日本さらには国際社会において、状況の変化や時代の要請に応じて柔軟に対応して活躍できる能力を身に付け、開拓者精神に満ちた心身共に健全な技術者（教育者、研究者を含む。）を育成する。 |
| 機械工学科 | 数学と物理学における基礎的な理解力・応用力と、これらにもとづいた機械工学の最も基礎的・普遍的な専門知識と概念を修得させるとともに、各種機械の設計・製作・評価・管理に関する学術分野の教育を行い、主として力学・制御、エネルギー・流体、生産プロセス及び工学設計の領域の知識・能力を身につけた有能な人間を育成する。 |
| 電気システム工学科 | 地球規模で持続可能な電気エネルギーシステムと、電気を有効に利用した快適な社会環境を確立するため、電気工学を基盤とする学術分野の教育を行い、主として、電力・設備システム、電機・制御システム、電気情報システムにおける各領域の知識・能力を修得した有能な人間を育成する。 |
| 電子情報工学科 | 現代産業の根幹を担う分野がエレクトロニクスを中心とした電子情報工学であると言っても過言ではない。通信、情報処理、電子デバイス、電子情報応用の学術分野の教育を行い、主として電子情報工学の基礎と応用、自然環境や人類の福祉、情報化社会への対応、能動的な行動力と問題解決、国際化への対応の領域の知識・能力を修得した有能な人間を育成する。 |

中部大学

| | |
|---------|---|
| 都市建設工学科 | 土木工学を基盤として、人間が生活する上で安心・安全かつ快適な社会基盤の整備や持続発展可能な地球環境の開発・保全に関する学術分野の教育を行い、主として、計画、設計、施工、管理などの専門的または実務的な領域の知識・能力を修得した有能な人間を育成する。 |
| 建築学科 | 建築は機能を満たし、安全、快適で美しさが求められる。歴史、都市、社会との関わりを基礎に、空間創造のための建築デザイン、安全な建築を造るための材料と構造、建築内外の環境の学術分野の教育を行う。そして、建築設計・計画、建築環境・設備、建築構造、建築生産、建築史、都市計画の領域の知識を修得し、デザイン能力があり、人間の幸福を実現できる有能な人間を育成する。 |
| 応用化学科 | 物質の変化に関する化学の基礎的概念を理解させ、これに基づいた化学の専門知識を修得させるとともに、化学計測、無機・有機およびナノ複合材料、エネルギー、環境に関する学術分野の教育を行い、主として環境化学、物理化学、無機化学、有機化学および化学工学の領域の知識・能力を身に付けた有能な人間を育成する。 |
| 情報工学科 | 情報工学の技術と知識の基礎を身につけ、システムモデルを構築する能力を伸ばすための教育を行い、主としてソフトウェア、通信ネットワーク、ハードウェア、システム制御に関する知識・能力を修得した有能な人間を育成する。 |
| 経営情報学部 | 豊かな教養、自立心と公益心と共に、企業経営と情報技術に関する基本的な考え方・知識・スキルとそれらを実社会で活用する能力、自ら学び続ける能力を身につけ、広く国際的視野から物事を考え実行する専門職業人/有識社会人となる有為な人間を育成する。 |
| 経営情報学科 | <p>社会における企業経営の現状と企業活動の仕組みを把握し、組織における情報の本質と意味および情報システムの果たす役割を理解し、会計情報や情報技術を活用して、将来以下のような人材として社会に役立つ人間を育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業会計の仕組みを理解した上で、企業活動の成果を定量的に分析し、データベースなどの情報技術を効果的に活用できる、会計に精通した人間。 2. 組織を構成する各部署の役割を把握し、それをもとに各部署あるいは部署間のコンピュータシステムを設計・維持・改良を行える人間。 3. 情報技術を駆使して情報収集・分析を的確に行うことができ、戦略策定など、企業活動の中核を担う人間。 |
| 経営学科 | <p>経営、経済、法律、会計、情報等の諸分野にわたる基本的な考え方、知識、スキルを修得し、自立心、公益意識、広い視野から物事を考える力、行動力を備えて、将来以下のような人材として社会に役立つ人間を育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報化社会において、企業等の組織的活動を発展に導くと共に社 |

| | | |
|--------|-------------|--|
| | | <p>会的貢献の実現にも努める経営者。</p> <p>2. 情報化社会における企業等の組織的活動において、自らの社会的価値観に立ちながら、経営者の構想と方針を理解し、専門的能力を活用してその実現に貢献する人間。</p> <p>3. 情報化社会において、企業等の組織的活動を、社会的な立場から望ましい方向に導く有識者。</p> |
| 国際関係学部 | | 社会科学ならびに人文科学の立場から、国際関係・国際文化の動向・諸要因を政治・経済・社会・文化等の諸分野について総合的・包括的、グローバルかつローカルな視点から考察し、国際化する社会のさまざまな現場で、実際に活躍できる有為な人間を育成する。 |
| | 国際関係学科 | 国際社会の政治・経済現象を社会科学の立場から考察する。主に政治学や経済学の方法論を援用して、国際社会の動向や諸要因の分析に重点を置く国際政治経済専攻、主に国際開発学や政策研究を援用して、人類社会の平和と発展を目指して現場での実践に重点を置く国際開発協力専攻を置く。 |
| | 国際文化学科 | 国際社会の社会・文化現象を人文科学の立場から考察する。主に人類学や社会学の方法論を援用して、比較や相対化によって人類文化の分析に重点を置く国際比較社会専攻、主に言語学や文化学の方法を援用して、他文化理解やコミュニケーション能力の向上など現場での実践に重点を置く国際言語文化専攻を置く。 |
| 人文学部 | | 人間の言語、心理、社会・文化、歴史などの事象や活動を対象とする最先端の研究成果を提供し、教育の過程を通じて、学生の自発性や独創性を促し、豊かな教養をもった品位ある人格を育成する。 |
| | 日本語日本文化学科 | 世界の中の日本という視点から、日本語や日本文化を深く理解し、国際社会の中での日本文化の意義を探求し、あわせてそのための読解力、思考力、表現力の練磨をとおして教養ある社会人を育成する。 |
| | 英語英米文化学科 | 高度な英語運用能力を養い、英語圏の言語、社会・文化に対する深くて確かな知識と理解力をもち、積極的に国際社会に参加できる逞しい人間を育成する。 |
| | コミュニケーション学科 | 現代のメディア・コミュニケーションについての理論と実践的技術を学び、情報の収集、吟味、加工・編集、発信のプロセスを深く理解し、高度情報社会で自立的な判断ができる人間を育成する。 |
| | 心理学科 | 基礎的な研究方法や技術を学び、認知、教育・文化、発達・社会、臨床などの各分野の専門知識を深く理解し、また統合し、こころの問題に対処できる力量をもった健全で成熟した社会人を育成する。 |
| | 歴史地理学科 | あらゆる事象や問題を「歴史的経緯」と「地理的視野」をあわせて統合的に考察・学習し、現代を生きてゆくために必要な深い洞察力と見識、歴史的・地理的センスを身につけた人間を育成する。 |

中部大学

| | |
|---------|---|
| 応用生物学部 | 現代の生物科学の爆発的な発展の状況を受け、21世紀のバイオ産業すなわち生物の機能を応用して人間生活に有用な物質生産や自然環境保全および食育環境の向上を目的とする産業および民政部門で活躍する職業人を育成する。 |
| 応用生物化学科 | バイオサイエンスとバイオテクノロジーを基盤として、微生物や動植物の多様な生物機能の利用技術を支え、発展させるとともに、先端の生物科学の情報にも精通し、人類の生存に有用な手段を提供し、広くバイオ産業界で活躍しうる人間を育成する。 |
| 環境生物科学科 | 環境に関わるバイオサイエンスとバイオテクノロジーを基盤として、環境の状況を科学的に評価し、循環型社会の実現と地球環境問題を解決する能力のある人間を育成するとともに、あらゆる産業・社会分野において環境問題にきわめて意識の高い職業人・技術者・社会人を育成する。 |
| 食品栄養科学科 | 最先端のバイオサイエンス、バイオテクノロジーに関する基礎教育を基盤として、現代の食を取り巻く種々の状況・問題を理解、解決するための知識や技術を習得し、食品産業界のみではなく、医薬品・健康産業や生物生産業など広い分野で活躍できる「食」のプロフェッショナルを育成する。 |
| 生命健康科学部 | 生活習慣病の拡大や感染症の増加など21世紀型の健康・医療に関する諸課題に対して、豊かな人間性ととも医学と生命科学の基礎を修得し、十分なバイオ・創薬・医用工学技術あるいは保健・看護学を基盤とした専門的技術を身につけて、学際的な新たな立場で対応できる有能な人間を育成することを通じて社会に貢献する。 |
| 生命医科学科 | 豊かな人間性の涵養教育および医学と生命科学の基礎教育を徹底した上で、21世紀型の疾病と健康不安のしくみを解明し、これを予防し診断・治療するための薬物、資材、機器、技術を開発する研究者、技術者、ならびに生活・職場環境を保健予防の視点で保全する専門家、ならびに関連学問領域の教育研究者の候補を育成する。 |
| 保健看護学科 | 看護学の専門教育ならびに医学と生命科学の基礎的教育を通じて、豊かな人間性を備え、人間の尊厳と権利を擁護でき、人々に信頼される実践力を持ち、保健・医療・福祉チームにおいて、国際社会の動向を見据えたグローバルな視野でコラボレーション、リーダーシップを発揮できる看護師、保健師を育成する。 |

表 3 - 1 - 2 研究科・専攻の教育目的

| 研究科・専攻 | 教育目的 |
|----------|---|
| 工学研究科 | <p>人間形成に必要な教養、普遍的な幅広い基礎知識、専門知識並びにその応用力を修得し、時代の要請に応え、さらに時代を先取りする工学的技術開発とそれを支える基礎学理の教育研究を行って、発想を具現化するための複眼的な論理思考法を訓練する。それにより、地域社会から国際社会において幅広く柔軟に活躍できる能力を身に付け、開拓者精神が旺盛で心身共に健全な技術者の育成を行い、有能な人間の育成と研究成果を通じて社会に貢献することを目的とする。</p> <p>博士前期課程では、技術・研究開発においてプロジェクトをリードし、工学的技術とその基礎学理を維持発展させる能力のある高度な技術者の育成を主目的とする。</p> <p>博士後期課程では、技術・研究開発において新しい知見を見出し、新たな工学的技術とその基礎学理を創造的に発展させる能力のある最高度の技術者、研究者及び教育者の育成を目的とする。</p> |
| 機械工学専攻 | <p>数学と物理学を基礎とし、知能化により人類の活動を時間的にも空間的にも飛躍的に広げる各種機械並びにシステムを設計・製作・評価・管理する学術分野の教育研究を行い、主として応用力学、環境・エネルギー学、材料強度学、精密工学の領域の知識・能力を修得した有能な人間を育成する。</p> |
| 電気電子工学専攻 | <p>電気・電子・情報通信工学を基盤とする学術分野における教育研究を行い、主として電力工学、電気機械、電子工学、電子応用、情報工学、電子物性及び電子デバイスの領域における基礎学理を研鑽し、時代を先取りした応用開発力のある有能な人間を育成する。</p> |
| 建設工学専攻 | <p>土木工学と建築学を基盤として、人間が生活する上で安心・安全な社会基盤と心豊かで快適な建築の環境を整備し、かつ、持続的発展可能な地球環境の開発・保全に関する分野の教育研究を行い、主として土木工学領域（構造工学系、コンクリート工学系、水工学系、地盤工学系、土木計画系）と建築学領域（建築構造学系、建築材料学系、建築環境・設備工学系、建築計画系、都市計画系、建築デザイン系、建築史・意匠系）の2領域12系の知識・能力を修得した有能な人間を育成する。</p> |
| 応用化学専攻 | <p>化学の基礎知識、専門知識をより深め、かつ、幅を広げ、それらの応用力を身に付けるとともに、先進的な化学技術者に必要な技術・研究開発能力を養い、地域社会、国、さらには地球規模における責任を自覚して、産業界をはじめとする社会に貢献する教育研究を行って、主として有機材料化学、機能材料、物理化学、有機合成化学及び化学工学の領域の知識・能力を修得した有能な人間を育成する。</p> |

中部大学

| | |
|----------|---|
| 情報工学専攻 | <p>情報工学分野に関する基礎知識・理解力を基盤として、当該分野に関する基礎的素養と将来国際的に通用する情報技術者・研究者となるための専門的素養を身に付けさせる教育研究を行い、主として情報通信、画像認識及び計算工学の3領域の知識・能力を修得した有能な人間を育成する。</p> |
| 経営情報学研究科 | <p>経営学・会計学・情報科学及び関連諸専門領域における研究活動とともに、これらの専門領域にまたがる学際的な研究活動を展開する。そして、それらの研究成果を社会に提供するとともに、豊かな教養、自立心、公益意識をもち、広く国際的視野から物事を考え、上記の専門領域に関わる高度の学識・技術を身に付けた専門職業人及び教育者、研究者となる人間を育成することを通じて社会に貢献する。</p> <p>博士課程前期(修士課程)では、上記の教育研究目的に沿い、経営学・会計学・情報科学に関する学識・技術を身に付けた専門職業人の育成に主眼を置く。</p> <p>博士課程後期では、上記の教育研究目的に沿い、経営学・会計学・情報科学に関する高度の学識・技術を身に付け、社会に役立つ新たな知の創造を実現する教育者、研究者となる人間の育成に主眼を置く。</p> |
| 経営情報学専攻 | <p>上記の教育研究目的に沿った研究活動を背景に、経営学・会計学・情報科学及び関連専門領域のいずれかに重点を置く高度の学識・技術を身に付け、さまざまな経済活動の効果的な実践に貢献する専門職業人、及び、そうした効果的な経済活動を支援する新たな知の創造に取り組む教育者、研究者となる人間を育成する。</p> |
| 経営学専攻 | <p>経営学及び関連専門領域に関する実践的理解を身に付けた以下の3つのタイプのリーダーとなる人間を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術をベースとしたベンチャー企業を創設し発展に導くリーダー。 ・技術をベースとした社内ベンチャーを興し発展に導くリーダー。 ・技術を活用して企業又は企業活動の仕組みを革新するリーダー。 |
| 国際人間学研究科 | <p>人文系諸科学と社会系諸科学に架橋をかけて、人間と文化、民族と国家の研究のフロンティアを拡大し、グローバルな諸問題に挑戦できる知的創造的研究及びさまざまな現場から広く社会貢献を目指した実践的研究ができる人間を育成し、研究成果を通して社会に貢献することを目的とする。</p> <p>博士前期課程では、地域社会の発展に貢献し、国際競争力を有する高度専門職業人・知識人を育成する。</p> <p>博士後期課程では、地域社会の発展に貢献し、国際的指導力を有する教育研究者・知識人を育成する。</p> |

| | |
|-----------------|---|
| <p>国際関係学専攻</p> | <p>政治学、経済学、社会学、人類学などを基盤として、理論と現場感覚、思考力と応用力のバランスを取って、同時代的な社会開発の課題に取り組むことのできる国際人、知的文化人、高度専門職業人及び教育研究者を育成することを目標とし、次の2領域を主要な分野とする。</p> <p>1. 「よりよい統治とは何か」を考える政策科学の基礎を掘り下げ、国際的な政治経済開発、国際協力、平和、人権、地球環境等を中心とした国際経済研究の領域。</p> <p>2. 人類文化・社会の多様性を究明するとともに、そこに内在する普遍と特殊、民族や国家の社会文化的個性を明らかにし、人類文化の総体的な理解を目指す領域。</p> |
| <p>言語文化専攻</p> | <p>言語・文化を基礎とする複合的な教育研究を行い、有為な人間の育成及び多方面の研究を通じて、社会への貢献を目的とし、次の3領域を主要な分野とする。</p> <p>1. 複眼的な視点と国際的な視野を養い、実践的なメディア特性にも通じた情報発信・受信の理論構築の能力を身に付けさせ、ますます多様化する高度情報社会におけるジャーナリストとして通用する人間の育成を目標とする領域。</p> <p>2. 英語そのものに対する理解を深める英語学、英語話者の文化的な側面に焦点を当てた文化学、英語教授法を扱う応用言語学の研究を通じて、高度な知識と教授技能を持った、職業人・教育者・研究者の育成を目標とする領域。</p> <p>3. 日本語学・日本文学・日本文化の専門性を深めながら、相互に関連した教育研究を行って、学際的な視野を持った人間の育成を目標とする領域。</p> |
| <p>心理学専攻</p> | <p>教育心理学、認知心理学、学習心理学、知覚心理学などに関する分野並びに臨床心理学、障害者心理学、カウンセリングなどの治療教育、適応行動に関する分野の教育研究を通じて、社会に貢献することを目的とする。学校心理学を専門とする高度専門職業人・知識人として学校現場でその能力を発揮できる人間並びに教育研究者を育成する。</p> |
| <p>応用生物学研究科</p> | <p>バイオサイエンス・バイオテクノロジーを基盤とする複合的な学術領域における教育研究を行い、有能な人間の育成及び研究を通じて社会に貢献することを目的とする。</p> <p>博士前期課程においては、下記の領域に関して特に先端科学技術を実験・演習を通じて教育し、もって応用生物学分野とりわけ生命分子化学、環境生物学並びに食品科学を基盤とした高度の専門職業人を育成することを主目的とする。</p> <p>博士後期課程においては、「生命・食・環境」の分野で最先端領域の研究実践を通じて指導的な教育研究者、最高度の技術者・開発技術者を育成することを目的とする。</p> |

中部大学

| | |
|----------------|--|
| <p>応用生物学専攻</p> | <p>研究科における教育研究は、次の3領域を主要な分野として行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 .バイオサイエンス・バイオテクノロジーが展開させてきた基盤的な研究方法や技術領域を創造的に継承発展させ、多様な生物機能の選択的な利活用を図る分野を、生命倫理、生物産業倫理の涵養を含めて教育研究する基盤生命科学領域。 2 .環境の変化が人間の生活に及ぼす負の影響を予測・予防することを目指し、環境の遺伝子レベルから個体、集団レベルまでの動態解析を基盤とし、多様な生物機能を活用して環境の保全・修復及び循環型社会の構築に係わる分野を、環境倫理の涵養を含めて教育研究する環境生物科学領域。 3 .生命科学研究や産業技術開発の成果を、多様な食品の製造、消費過程の改善、改良に適用し、食の安全・安心を追求し、また、健康増進を目指した新たな栄養科学の展開を図る分野を、食の倫理の涵養を含めて教育研究する食品栄養科学領域。 |
|----------------|--|

3 - 1 -

- ・表3 - 1 - 1 及び表3 - 1 - 2 の教育目的は、平成 18(2006)年度に改定されたものであり、この教育目的を達成するために、各学部では教育課程の編成方針が集中的に検討されている。ほとんどの学部、研究科では、平成 19(2007)年度中に新しい編成方針が設定され、新カリキュラムが作成される予定である。その編成方針に基づき、新しい具体的な教育課程を編成していく。

3 - 1 -

- ・教育上の使命・目的に沿ったカリキュラム改革は各学部で行われており、教育目的が教育方法に十分反映される状況にあると判断している。
- ・具体的な例として、教育目的の一つである学生の国際性の涵養のためにオハイオ大学(米国)と提携を結び、同大学から派遣される教員による高度英語教育プログラム(PASEO:Preparation for Academic Studies in English Overseas)を実施している。
- ・学生に高度情報社会に対応できる素養を身に付けさせることを目的として、学生にノートPCの所持を義務付けており、広範な授業においてノートPCが活用されている。
- ・本学は「実学」を重視する教育を目的に掲げており、工学部における「創成科目」等、各学部・学科でフィールドワーク、体験的な教育、課題対応型の教育を実践している。

(2) 3 - 1 の自己評価

- ・各学部・学科では、建学の精神・基本理念・使命・目的に沿って教育目的を明確に設定し、学内に周知している。
- ・各学部・学科では、教育目的に沿った教育課程の編成方針を適切に設定し、教育目的を教育方法に反映させる努力を続けていることは十分評価できる。
- ・「実学」を重視する本学の教育目的に対応する各学部・学科の取り組みから、チームワーク、リーダーシップ、個人の責任等、学生個々の基礎的な素養が養成されている。

- ・大学院の各研究科・専攻では、教育目的を明確に設定し、現在それに沿った教育方法の改革を進めている。

(3) 3 - 1の改善・向上方策(将来計画)

- ・各学部・学科は、建学の精神、基本理念・使命・目的に相応しい教育目的・目標を掲げ、教育課程の改革を進めつつあり、多くの学部では平成19(2007)年度中にカリキュラム改定等を行う。これによって、学部教育のより一層の充実を図っていく。
- ・各研究科・専攻の教育目的に沿ったカリキュラムや研究指導内容の改革を早急に進め、大学院の教育研究の水準を高めていく。

3 - 2 教育課程の編成方針に即して、体系的かつ適切に教育課程が設定されていること。

《3 - 2の視点》

- 3 - 2 - 教育課程が体系的に編成され、その内容が適切であるか。
- 3 - 2 - 教育課程の編成方針に即した授業科目、授業内容となっているか。
- 3 - 2 - 年間学事予定、授業期間が明示されており、適切に運営されているか。
- 3 - 2 - 年次別履修科目の上限と進級・卒業・修了要件が適切に定められ、適用されているか。
- 3 - 2 - 教育・学習結果の評価が適切になされており、その評価の結果が有効に活用されているか。
- 3 - 2 - 教育内容・方法に、特色ある工夫がなされているか。
- 3 - 2 - 学士課程、大学院課程、専門職大学院課程等において通信教育を行っている場合には、それぞれの添削等による指導を含む印刷機材等による授業、添削等による指導を含む放送授業、面接授業もしくはメディアを利用して行う授業の実施方法が適切に整備されているか。

(1) 3 - 2の事実の説明(現状)

3 - 2 -

- ・本学では、全学的な観点で教育課程を体系的に編成し、教育課程編成の基本事項を教員に配布している「教員手引書」に記載して周知を図っている。
- ・基本事項をもとに、各学科及び各専攻の教育課程の編成は学科及び専攻が、教養教育科目の編成は「教養教育部主任者会」が行っている。編成された教育課程案は各学部の教務委員会及び教養教育部で審議後、全学の教務委員会で決定する。
- ・教養教育部、各学部・学科、各研究科・専攻の教育課程についての詳細は、学部学生用と大学院学生用の「学生便覧」に記載して周知を図っている。

3 - 2 -

- ・各学科及び各専攻の授業科目とその内容は、それぞれの教育目的に沿って設定され、十分な審議を経て決められており、授業科目及び授業内容は、学科及び専攻の教育課程の編成方針に即している。
- ・本学が開講する授業科目等は、「学生便覧」に記載している。各授業の主旨及び具体的達成目標、カリキュラムの中での位置付け、授業計画、授業方法、成績評価方法及び基準、

中部大学

教科書、参考文献等は、シラバスに記載している。

- ・シラバスは、各学部、研究科毎にまとめ、全学生に配布していたが、平成 19(2007)年度からは全ての学生がパソコンを携帯しているので、学内外から何時でも閲覧できるように HP(ホームページ)上で公開している。

3 - 2 -

- ・新入生に配布する「CAMPUS LIFE」には、年間の学事予定、学生が授業等を履修するに際しての留意事項、授業時限や単位等を記載して、その周知を図っている。
- ・毎学期が始まる前に、ガイダンスの案内や履修申告の日程・方法と併せて授業予定表を記載した教務課発行の「履修申告について」を全学生に交付し、周知を図っている。
- ・「CAMPUS LIFE」や「履修申告について」の記載事項の要約は、HP に公開しており、学生には、HP から必要な情報を得るよう指導している。

3 - 2 -

授業と単位

- ・本学の授業は、通常、1 コマ 90 分で行われ、これを単位換算における 2 時間としている。
- ・本学は、春学期と秋学期の 2 学期制を取り、各学期 15 週の授業を実施している。
- ・講義及び演習については、本学が定める時間 (15~30 時間) の授業をもって 1 単位としている。実験、実習、製図、実技については、本学が定める時間 (30~45 時間) の授業をもって 1 単位としている。

学年、学期、修業年限及び在学期間

- ・学年は、春学期と秋学期の 2 学期に分けている。
春学期 4 月 1 日から 9 月 30 日まで 秋学期 10 月 1 日から 3 月 31 日まで
- ・大学の修業年限は 4 年(8 期)で、在学期間は通算 8 年を超えることはできない。

履修単位数の上限

- ・卒業要件に含まれない教職課程科目、学芸員課程科目 (専門教育科目と共用される科目を除く) を除き、各学年の履修単位数の上限は表 3 - 2 - 1 のように定められている。

表 3 - 2 - 1 各学年の履修単位数の上限

| 学 年 | | | | | | | | | 計 |
|---------|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 学 期 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | |
| 履修単位数上限 | 26 | 26 | 26 | 26 | 26 | 26 | 20 | 20 | 196 |

卒業要件と単位数

- ・学部を卒業するためには、4 年以上(8 年以内)在学し、表 3 - 2 - 2 に示す最低単位数以上を修得することが必要である (教養教育科目及び専門科目には更に詳細な必要条件がある)。総単位数には「自由科目」を 30 単位以内 (経営情報学部、国際関係学部及び人文学部) 20 単位以内 (工学部、応用生物学部、生命健康科学部 (生命医科学科))、2 単位以内 (生命健康科学部 (保健看護学科)) 含むことが可能である。

表3 - 2 - 2 卒業に必要な最低単位数

| 学部(学科) | 教養教育科目 | 専門教育科目 | 合計 |
|-----------------|--------|--------|-----|
| 工学部 | 28 | 80 | 128 |
| 経営情報学部 | | 70 | 128 |
| 国際関係学部 | | 70 | 128 |
| 人文学部 | | 70 | 128 |
| 応用生物学部 | | 80 | 128 |
| 生命健康科学部(生命医科学科) | | 80 | 128 |
| 生命健康科学部(保健看護学科) | | 100 | 130 |

大学院(大学院入学から学位授与までのプロセス)

- ・大学院博士前期課程(修士課程)の在学年数は2年以上(4年以内)、後期課程は3年以上(6年以内)である。ただし、優れた業績をあげた者は在学年数の短縮が認められる。
- ・大学院博士前期課程又は修士課程に入学した学生は、原則として入学時に指導教員を定め、その指導教員の指導の下に2年間の学習・研究計画を立て、それに基づいて、研究科共通科目、専攻独自の科目、他専攻の科目等を必要に応じて履修し、表3 - 2 - 3に示す単位以上を修得し、かつ、指導教員による必要な研究指導を受けた上で、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格することによって、同表に示す学位が授与される。

表3 - 2 - 3 大学院博士前期課程(修士課程)修了に必要な単位数と学位

| 研究科 | 必要修得単位数 | 学位 |
|----------|---------|-----------|
| 工学研究科 | 30 | 修士(工学) |
| 経営情報学研究科 | 32 | 修士(経営情報学) |
| 経営情報学専攻 | | |
| | 40 | 修士(経営学) |
| 国際関係学研究科 | 30 | 修士(国際学) |
| 国際関係学専攻 | | |
| 国際人間学研究科 | 30 | 修士(国際関係学) |
| 国際関係学専攻 | | |
| 言語文化専攻 | | |
| | 30 | 修士(言語文化学) |
| | 30 | 修士(心理学) |
| 応用生物学研究科 | 30 | 修士(応用生物学) |

- ・学部学生の大学院進学を促し、大学院教育を一層活性化させるために、成績の優秀な学生には学部在籍時に大学院の授業科目の履修を認め、その履修単位は10単位を限度として大学院進学時に大学院における履修単位と認定する制度を持っている。現在、同制度を導入している研究科は、経営情報学研究科、国際人間学研究科の2研究科である。
- ・大学院博士後期課程に入学した学生は、入学時に指導教員を定め、その指導の下に、学習・研究計画を立て、学習・研究に従事する。表3 - 2 - 4に示す単位以上を修得し、

中部大学

更に、指導教員による必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格することによって、同表に示す学位が授与される。これらの学位は各研究科委員会で審議され、その結果に基づいて学長が授与している。

表 3 - 2 - 4 大学院博士後期課程修了に必要な単位数と学位

| 研究科 | 必要修得単位数 | 学位 |
|--|----------------------------------|-----------------------------------|
| 工学研究科 | 0 | 博士（工学） |
| 経営情報学研究科 経営情報学専攻 | 講義課目 12 専門研究演習 12 合計 24 | 博士（経営情報学） |
| 国際関係学研究科 国際関係学専攻 | 8 | 博士（国際学） |
| 国際人間学研究科 国際関係学専攻 言語文化専攻 心理学専攻 | 専門研究演習 8 専門研究演習 8 専門研究演習 8 | 博士（国際関係学） 博士（言語文化学） 博士（心理学） |
| 応用生物学研究科 | 0 | 博士（応用生物学） |

3 - 2 -

成績評価

- ・ 授業担当教員はカリキュラムにおけるその授業の位置付けと達成目標及び評価方法・基準に従って達成度を総合的に評価し、各授業科目の成績を満点が 100 点になる総合評価点数（素点）で評価している。
- ・ 各授業科目の達成目標、カリキュラムにおける位置づけ、評価方法、評価基準等は、シラバスに統一的なフォーマットで記載し、学生に周知を図っている。
- ・ 成績評価は、S、A、B、C、E、R、I の 7 種の評語をもって表し、S、A、B、C は合格、E は不合格、R、I は保留である。評語 R は授業と同じ期に、追加的な試験、課題提出等により合格(C)、不合格(E)を決定するものであり、評語 I は、授業の次の期まで追加的な学習を行い、次の期に合格(C)、不合格(E)を決定するものである。このような段階評価とは別に、審査の上、認定されて与えられる単位として、認定(T)がある。
- ・ 成績が合格の場合、その授業科目に定められた単位が与えられる。

成績評価と GPA(Grade Point Average)制度

- ・ 平成 18(2006)年度から、各科目の成績評価に基づき、各学生の全体的な成績を表す指標として GPA を導入した。入学時からの累積 GPA と学期ごとの GPA の 2 種類がある。この GPA は、学生への学習指導や教育改善の基礎資料と、就職指導や大学院進学における基礎資料とを与えるものである。総合評価点数（素点）と評語・評価ポイントとの対応は表 3 - 2 - 5 に示す通りであり、GPA の算出方法を以下に示す。なお、総合評価点数(素点)とは、担当教員が評価の対象とするもの全てを 100 点に換算した点数をいう。

表 3 - 2 - 5 評語、評価ポイント及び合否

| 総合評価点数 | 評語 | 評価ポイント | 合否 |
|---------|----|--------|-----|
| 90～100点 | S | 4 | 合格 |
| 80～89点 | A | 3 | 合格 |
| 70～79点 | B | 2 | 合格 |
| 60～69点 | C | 1 | 合格 |
| 0～59点 | E | 0 | 不合格 |

(注) 評価保留 R,I (総合評価点数：0～59点) 評価の学生に対しては、再評価後、C または E の評価が与えられる。

$$GPA = \frac{4 \times (S \text{ の取得単位数}) + 3 \times (A \text{ の取得単位数}) + 2 \times (B \text{ の取得単位数}) + 1 \times (C \text{ の取得単位数})}{\text{総履修単位数 (不合格の単位数を含む)}}$$

- ・平成 17(2005)年度以前の入学生に対しては過渡的な処置として、評語 A,B,C,E を使用して、GPA の算出も同時に行っている。

3 - 2 -

特色ある教育方法

a . IT 教育の推進

- ・平成 16(2004)年度入学生から携帯パソコンの所持を義務付けたので、平成 19(2007)年度には全学生が所持することとなり、パソコンを使用する授業も広範に亘っている。

b . 習熟度別クラス編成

- ・入学式終了後、新入生の全員に英語と数学の基礎学力試験 (フレッシュマンテスト) を実施し、その結果に基づいて英語、数学等の習熟度別クラス編成を行って、学生がそれぞれの能力にあった授業を受けられるようにしている。
- ・専門科目の授業においても、習熟度別クラス編成を行う場合がある。

c . 再履修クラス編成

- ・評価不合格の学生を対象とする再履修クラスを必要に応じて翌年又は次学期に開講し、再度の説明や演習問題等で学生が授業内容を十分理解できるように配慮している。

d . 専任教員の担当科目に特別講師を招いた授業内容の充実

- ・各学科においてコアとなる科目は、専任教員が担当することにしてはいるが、授業内容を深めるとともに、学生の関心を一層高めさせることを目的として、各期 15 回の授業の内、1、2 回を外部から招いた特別講師に授業を依頼する制度を取っている。特別講師としては、その授業内容に即した学界の権威や実務家等に依頼している。

e . 総合科目のテーマ設定

- ・学生の活字離れ対策として、教養教育科目の「総合科目」において、統一テーマを「中部大生が読む 10 冊の本」とし、教員アンケートによって 10 冊を選定するとともに、それに関わる講義、作家等を招いた「自書を語る」と題する講義を実施して、学生が

中部大学

読書に親しむようにし、成果を上げている。

f. 留学前準備教育 - PASEO プログラム

- ・本学は、海外の 20 大学と学術交流協定を締結し、学生が在学中に提携大学へ留学又は研修に赴くことを推奨している。その準備教育として、本学と緊密な提携関係にあるオハイオ大学（米国）OPELT（The Ohio Program for English Language Teaching）に所属する教員を招き、英語だけでなく、海外事情を含めた授業も行っている。これを「PASEO プログラム」と呼び、毎学期 200 名前後の受講者がある。

g. 特徴ある導入教育の実施

- ・工学部共通の伝統的な特色ある導入教育は「工学基礎実験」である。これは、25 年来「中部大学方式」として知られ、幾つかの私立大学の学生実験のモデルとなったものである（詳細は「特記事項」に記載）。また、各学科では、導入教育の意義や目的について学生に周知させるとともに、大学での学習法や学生生活にスムーズに溶け込めるように指導する初年次導入教育科目が用意され、実施されている。
- ・経営情報学部では、「大学で学ぶことの意義と面白さ」、「分からないことを調べる習慣と方法」、「日本語文章力」、「コミュニケーション力」などの基本的能力を身につけさせることを目的としたゼミナール型必修科目「基礎演習」を1年次学生を対象に実施している。
- ・国際関係学部では導入教育（基礎演習）用の「基礎テキスト」を作成し、内容の精選と標準化を図っている。
- ・応用生物学部では、珍しい動植物が生息するなど変化に富んだ自然を残している、広大な「恵那キャンパス」で体験型学習を実施している。

h. 全学及び各学部で実施している特徴的な教育科目等

・実践型環境教育「森の健康診断」 - 全学

本学は、平成 17(2005)年度から官学民連携によって土岐川・庄内川源流の森林が保有する「緑のダム効果」としての水分涵養能を調査・分析・評価する「森の健康診断」を行ってきた実績を踏まえ、地域と連携して持続可能な開発に向けた学生の意識醸成と開発を担う人材育成を目指した実践型環境教育「森の健康診断」を推進している。

・「創成科目」 - 工学部

工学部では、フロントランナー時代を迎え、キャッチアップ時代の工学教育では不足していた“学生の自ら学ぶ姿勢”、“デザイン能力”、“コミュニケーション能力”と“技術者倫理的洞察力”を育成・強化するために平成 16(2004)年度から本格的に「創成科目」を導入した（詳細は「特記事項」に記載）。

・「他文化体験論」 - 国際関係学部

教員は議論を引き出す形で参加するに止め、海外での体験を持つ数名の学生を講師とし、一般学生が聴講して質疑を行う形式の授業で、「国際協力の現場体験」や JICA との協力による「青年海外協力隊入門セミナー」等が含まれる。また、7 種の地域研究科目、9 種の地域言語科目の開講も大きな特徴である。

・「学びの泉」 - 経営情報学部

経営情報学部では、独自に開発した学習支援システム「学びの泉」を用いて、HP(ホームページ)によるレポート提出や小テスト、パワーポイント教材による予習・復習な

ど、きめ細かな双方向型学習支援を行っている。

・「全員長期海外留学」 - 人文学部英語英米文化学科

人文学部英語英米学科では、2年次に学生全員が長期海外留学(4ヶ月、米国・オハイオ大学、オーストラリア・ニューイングランド大学)をすることを必須化している。英語力はもとより、現地の学生とともに専門科目を履修し、単位を修得した自信は、極めて大きく、学生の成長は、大変に顕著である。

・食品プラントを活用した実験科目群 - 応用生物学部

食品栄養科学科設置時に、特色ある教育として、多くの食品製造ができる最新のプラント群を設置し、それを活用した教育を開始した。まず、学部共通科目として食品学実験があり、食品のものづくりを体験して、食品を化学的にとらえる能力を養成し、次いで食品加工学実験及び食品製造学実験へと発展するカリキュラムを設定している。

単位互換による単位認定

a. 他大学等における修得単位の取り扱い

・「中部大学学則」第10条の規定により、学生は、学長の許可を得て、他の大学等(外国の大学または短期大学を含む)との協議に基づき、当該大学等の授業科目を履修することができる。この場合、他の大学で修得した単位は、60単位を超えない範囲で本学の卒業単位に算入できる。他の大学での履修の期間は、原則として1年以内とする。ただし、特別の理由のある場合には、協議の上、更に1年以内に限り延長することができるが、履修の期間は、通算して2年を超えることはできない。また、他の大学での履修の期間は、本学の在学期間に算入する。

・本学入学以前に他大学、短期大学、高等専門学校で専攻科で取得した単位の認定は、「中部大学学則」第11条に基づき、科目等履修生として修得した単位を含め、前項の単位と合せ60単位を超えない範囲で行う。ただし、編入学、学士入学の場合を除く。

・本学は、「愛知学長懇話会」による単位互換事業に参画し、学生がこの単位互換事業に参加する他大学の授業科目を履修し単位を修得することを勧めている。

b. 外部試験による単位の認定

・語学に関して、次に掲げる検定試験等の学習成果について単位認定を行う。

- 1) 実用英語技能検定試験(英検) 1級及び準1級
- 2) TOEFL CBT方式 173点以上(PBT方式 500点以上)
- 3) TOEIC 600点以上
- 4) 日本語能力試験 1級

・前項において、単位を与える授業科目及び単位数は、次のとおりとする(「中部大学学則施行細則」第5条第2項)

- 1) 英検1級及び準1級並びにTOEIC600点以上取得者
総合英語A、総合英語B、資格英語A、資格英語B 各1単位、計4単位以内
- 2) TOEFL CBT方式 173点以上取得者(PBT方式 500点以上取得者)
総合英語A、総合英語B、留学英語A、留学英語B 各1単位、計4単位以内
- 3) 日本語能力試験 1級
日本語 A、日本語 B 各1単位、計2単位以内

・工学部情報工学科の学生には、語学に関する単位認定のほか、初級システムアドミニ

中部大学

ストレーター試験、上級システムアドミニストレーター試験、基本情報技術者試験の合格に係る結果に対して、「情報工学科」専門科目のうち情報処理系技術演習 A、B 各 1 単位（計 2 単位以内）を与えることができる（「中部大学学則施行細則」第 6 条）。

- ・経営情報学部学生には、語学に関する単位認定の他、次に掲げる資格試験の合格に係る学習結果に対して単位を与えることができる（「中部大学学則施行細則」第 7 条）。

1) 初級システムアドミニストレーター試験

同試験合格者：経営情報学科・経営学科の専門科目のうち実践情報 A 2 単位

2) 基本情報技術者試験

同試験合格者：経営情報学科・経営学科の専門科目のうち実践情報 B 2 単位

3) 日商簿記検定試験

同試験合格者：経営情報学科・経営学科の専門科目のうち実践簿記 2 単位

- ・以上の外部試験による単位の認定は、本学入学前の学習の場合にも適用する。

c. 課外活動に対する単位認定

- ・本学は、学生に課外活動を積極的に勧めており、正課以外に指導者の下で継続して活動している学生を評価し、定められた団体において課外活動を自発的に、かつ継続的に行った学生に単位を与えることができることとしている。単位の認定を申請できる課外活動団体（クラブ）は、現時点では、硬式野球部、ラグビー部、ハンドボール部、剣道部、フライングディスククラブの 5 団体である。認定できる科目は、『スポーツ活動 A・B・…・H』の各 1 単位で、履修の上限単位数に含めない。

- ・単位認定の申請は、各課外活動（クラブ）団体の顧問をとおして行う。顧問は申請者の活動状況を個々に評価し、団体ごと一括して申請する。この場合、「健康科学教室」内に「課外活動単位認定審査会」を設置して単位の認定を行う。

d. 留学による単位認定

- ・本学は、海外の 20 大学と「学術交流協定」を締結し、その内の 11 大学には本学学生を留学生または研修生として派遣している。本学では、研修と留学とを明確に区別するとともに、留学には、派遣留学、認定留学の 2 種類がある。派遣留学とは、本学が公募している留学制度によって留学する場合を言い、認定留学とは、学生が外国の大学に入学を許可され、本人の申請に基づいて学長が留学を許可した場合を言う。研修プログラム、派遣留学プログラムは、表 3 - 2 - 6 に示す。

表 3 - 2 - 6 研修プログラムと派遣留学プログラム

| 提携大学名 | 国名 | 研修プログラム名 | 研修期間 | 実施時期 |
|-------------------|------|-------------------|------|-------|
| 外交学院 | 中国 | 中国語短期研修プログラム | 4 週間 | 夏季休暇中 |
| 圓光大学校 | 韓国 | 韓国語・韓国文化短期研修プログラム | 3 週間 | 夏季休暇中 |
| 香港理工大学 | 中国 | 英語短期研修プログラム | 3 週間 | 夏季休暇中 |
| ポルドー第 3 大学 (エクスブ) | フランス | フランス語短期研修プログラム | 3 週間 | 夏季休暇中 |
| オックスフォード大学 | イギリス | 英語短期研修プログラム | 3 週間 | 夏季休暇中 |
| グアナフアト大学 | メキシコ | スペイン語短期研修プログラム | 3 週間 | 春季休暇中 |

| 提携大学名 | 国名 | 研修プログラム名 | 研修期間 | 実施時期 |
|-----------|------|--------------------------|------|-------|
| マンチェスター大学 | イギリス | 英語・インターンシップ 短期研修プログラム | 7週間 | 春季休暇中 |
| オハイオ大学 | アメリカ | 長期研修プログラム | 4ヶ月 | 春学期 |

| 提携大学名 | 国名 | 派遣留学プログラム名 | 期間 | 実施時期 |
|-------------|---------|---------------|-----|---------|
| ハルビン理工大学 | 中国 | 中国語・中国文化プログラム | 4ヶ月 | 春学期・秋学期 |
| 圓光大学校 | 韓国 | 韓国語・韓国文化プログラム | 4ヶ月 | 春学期・秋学期 |
| ウェストバージニア大学 | アメリカ | 派遣留学プログラム | 1年 | 1月 |
| ニューイングランド大学 | オーストラリア | 派遣留学プログラム | 1年 | 2月 |
| オハイオ大学 | アメリカ | 派遣留学プログラム | 1年 | 3月 |
| | | 大学院奨学金留学制度 | 2年 | 9月 |

(注)表3-2-6及び表3-2-7に記載の大学のほか、7大学と学術交流協定を提携しているが、学生交流に関する事項については、今後の協議を待って定めることとしている。

- ・人文学部・英語英米文化学科では2年次春学期(3期)に長期海外研修Aを必修科目としており、海外での学習を義務付けている。
 - ・研修を受け、それに対する単位認定を申請する者については、外国語教室及び学科において研修内容、研修時間数を精査し、その結果に基づき、教授会で振替科目及び単位数を決定する(「中部大学学則」第10条を適用)。
 - ・海外の大学へ留学して修得した単位を本学の単位として認定することができる(「中部大学外国の大学への留学に関する規程」第9条)。
 - ・単位の認定は、学部においては60単位、大学院においては10単位を超えない範囲で行う(「教員手引書」p.49)。
 - ・海外の大学に留学した学生は、帰国後速やかに単位認定の申請を行うことになるが、その申請は、「国際交流センター」を経て教務部教務課にて行う。
 - ・単位認定は、当該学生の所属する学部・学科で認定科目、単位等について検討し、学部教授会の承認を得て発効する(「教員手引書」p.49)。
- e. 留学生の受け入れ
- ・本学学生の提携大学への留学等に対応して、本学は提携大学からの学生を特別聴講学生として受け入れている。受け入れた学生に対しては、基本的に本学学生と同等の権利を付与している。受け入れプログラムを表3-2-7に示す。

表3-2-7 留学生の受け入れプログラム

| 提携大学名 | 国名 | 受入プログラム名 | 人数等 | 受入期間 | スタート時期 |
|-------------|------|-------------------|------|------|--------|
| オハイオ大学 | アメリカ | 山田和夫日本研修 プログラム | 協議の上 | 3ヶ月 | 協議の上 |
| | | | | 6ヶ月 | |
| | | | | 9ヶ月 | |
| ウェストバージニア大学 | アメリカ | 名称を定めていない | 協議の上 | 1年 | 9月 |

中部大学

| 提携大学名 | 国名 | 受入プログラム名 | 人数等 | 受入期間 | スタート時期 |
|-----------------|---------|-----------|------|------|--------|
| ニューイングランド大学 | オーストラリア | 名称を定めていない | 2名 | 1年 | 4月/9月 |
| ボルドー第3大学 (インサブ) | フランス | 名称を定めていない | 協議の上 | 1年以内 | 協議の上 |
| ラロッシュ大学 | フランス | 名称を定めていない | 2名 | 協議の上 | 協議の上 |
| マレーシア科学大学 | マレーシア | 名称を定めていない | 5名 | 1年以内 | 9月 |
| 圓光大学校 | 韓国 | 名称を定めていない | 3名 | 1年 | 4月 |
| ハルビン理工大学 | 中国 | 名称を定めていない | 5名 | 1年 | 4月 |
| 香港理工大学 | 中国 | 名称を定めていない | 3名 | 1年以内 | 4月 |
| 外交学院 | 中国 | 名称を定めていない | 3名 | 1年以内 | 4月 |

- ・特別研修生は、主として本学の「日本語研修プログラム」を履修しており、修了生に「中部大学日本語研修プログラム修了証書」を交付するとともに、取得単位及び成績を当該学生及び学生の所属する大学に通知する。

3 - 2 -

該当せず。

(2) 3 - 2の自己評価

- ・建学の精神・基本理念・使命・目的を中心に据えた教育課程の編成方針に即して、教育課程は体系的に編成されつつあり、内容も概ね適切である。ただし、教養教育と学部専門教育の内容に関しては更に連携をとっていく必要がある。
- ・各授業科目、授業内容は、当該学部・学科の教育目的に沿って作成されており、授業の主旨、具体的達成目標及びカリキュラムの中での位置付けをシラバスで明らかにするとともに、学生への周知を十分に図っている。
- ・年間学事予定、授業期間、履修申告、シラバス等の要約は、「CAMPUS LIFE」に明示されており、それを「新入生オリエンテーション」で入学生に配布している。また、全学生には毎学期オリエンテーションを行い、そのとき配布する「履修申告について」の中でも記述している。さらに、HP上でも配信して学生の便宜を図っている。
- ・年次別履修科目の上限、学部の進級・卒業要件、大学院の修了要件、学位授与プロセス等を適切に定め、運用している。
- ・ただし、高い理想を掲げて設定した「自由科目 副専攻」の制度については、受講生が少なく、理想との乖離(かいり)が明らかになってきた。
- ・大学院教育は、制度的に改善の余地を残しているが、各研究科・専攻ごとに研究指導を工夫して、修士及び博士の学位の授与においてかなりの成果をあげている。
- ・成績評価については、各授業の目標を明示し、その達成度で評価する本学の成績評価システムは、適切に機能している。
- ・成績の段階評価として、S、A、B、C、Eは、通常用いられているが、成績の保留(R、I)は、本学の成績評価の特徴である。評価Rは、当該学期内に合格の評価を得るための学習努力を喚起する効果を発揮している。I評価は、実験、実習、実技に限られているが、当該学期に引き続き学期に、少人数指導を行い、成果をあげている。

- ・ GPA 制度については、成績が適切に点数化され、支障なく学生個々に GPA ポイントが与えられている。また、それを活用した学生指導が行われている。
- ・ 教育方法については、下記のような特色ある工夫がなされており、その多くについて良好な教育効果を得ている。
 - 1) 学生全員が所持する携帯パソコンは、授業での使用、レポート等でのワープロ機能、表計算機能の利用から情報収集機能等の利用へと拡大し、教育に役立っている。
 - 2) 習熟度別クラス及び再履修クラスの授業は概ね好評である。
 - 3) 専任教員の担当授業に特別講師を招く方策は、財政的には支出増になるものの、授業内容が豊かになるなど評価されている。また、「総合科目」における学生の読書を奨励する授業は、学生の読書に対する関心を高める効果が出始めている。
 - 4) 本学は、積極的に学生の留学を勧め、その準備のための英語コース(PASEO プログラム)を置いているが、TOEFL、TOEIC、英検等を受験し、外国語の単位認定を受ける学生はまだ限られている。しかし、オハイオ大学との長年の提携関係を活用した本学の留学準備教育は、英語学習に関心を持つ学生に対して、留学意識の高揚と英語学習の一層の進展に貢献している。
 - 5) 導入教育については、各学部又は各学科において、積極的に取り組み、学生の大学生活への適応と大学における学習を円滑に進める措置を取っている。また、工学部の「創成科目」を初めとして、各学部・学科が特徴ある教育として実施している科目については、概して学生の学習への意欲が高く、有意義な科目となっている。
 - 6) 単位互換による単位認定として、外部試験による工学部情報工学科、経営情報学部の単位認定は数的には多いとは言えないが、学生の学習意欲を喚起する役割を果たしている。また、課外活動に対する単位認定、海外の大学等における研修の単位認定、留学による単位認定等は、関係する学内部局が適切に対応している。

(3) 3 - 2の改善・向上方策(将来計画)

- ・ 教育課程は全体として概ね体系的な編成になっている。しかし、教養教育については今後、企画・立案及び実施を全学化し、学生が修得すべき教育内容を改善していく。
- ・ 各学部・学科の教育課程において、どのような人間を育成するかをより明確にし、それに基づき、カリキュラムの精選を図る。これにより、学生の自主学習を促し、授業の効率化及び単位の実質化を図っていく(例えば、講義科目における1単位は、15時間の授業と30時間の教室外学習が基準となっており、これに近づける工夫等)。
- ・ 「自由科目 副専攻」制度については、改善方策や継続の可否を検討する。
- ・ 本学は、大学院の充実強化に向けた検討を精力的に行っており、各研究科と研究所・研究センターを連携させて、研究科の教育研究能力を向上させるとともに、学部・大学院が一貫した教育システムを推進する。また、新しい教育目的に沿った大学院教育と学位授与を行っていく。
- ・ 本学で導入した GPA 制度を学生の学習指導等に活用し、効果的な学生指導方策を実施に移して行く。
- ・ 外国語(特に英語)教育について、PASEO プログラム等の充実が図られてきたが、今後は一般学生を対象とした英語教育を抜本的に改善していく。

中部大学

- ・入学生の学力レベルの差は拡大しており、習熟度別クラス編成の授業及び再履修クラスを増やす努力をしていく。
- ・大学の導入教育として読書習慣を取り入れることは適切であると判断しており、学習意欲の高揚を図る意味から、学生が読書に親しむような取り組みを更に充実させていく。
- ・学生の関心や能力が多様化する状況を踏まえ、学部・学科の教育目的に沿って効果的な導入教育を実施する。また工学部における「創成科目」の発展等、各学部の目玉となる教育科目を進化・開発して、学生の学ぶ意欲を喚起するとともに、本学の教育姿勢を社会に発信していく。

[基準3の自己評価]

- ・各学部・学科及び各研究科・専攻では、建学の精神・基本理念・使命・目的に沿って教育目的を明確に設定し、学内に周知している。
- ・各学部・研究科では、教育目的に沿って教育課程の編成方針を設定し、それを教育方法に反映する努力を重ねている。
- ・各学部・研究科の教育課程は、体系的に編成され、概ねそれに即した授業科目、授業内容になっている。
- ・教養教育については全学的な企画・実施が行われているが、教養教育と学部専門教育の連携は十分に機能しているとは言い難い状況にある。
- ・高い理想を掲げて設定した「自由科目 副専攻」の卒業要件への算入について、学生が自由科目を受講するに際しての教養教育科目、学部専門科目等との差別化の困難さ、副専攻の受講生の少なさなど、理想との乖離（かいり）が明らかになってきた。
- ・年間学事予定、卒業要件等は適切に定めている。また、学習結果の評価についても達成度評価を中心とした成績評価基準を明示し、厳正な成績評価に努めている。
- ・本学では、教育内容・方法に関して多くの特色ある工夫や試みを進めており、その多くについて成果を得つつある。

[基準3の改善・向上方策（将来計画）]

- ・平成18(2006)年度に総合大学としての新しい教育理念・使命・目的が制定され、それに基づいて各学部・学科及び研究科・専攻の教育目的も定められたので、今後はそれらに沿って教育方法等の一層の改善を図っていく。
- ・教養教育を本学の教育理念・使命・目的に沿って企画・実施するように改め、教養教育と学部専門教育の一体性を確保していく。
- ・学生が自ら選択して履修する「自由科目 副専攻」の趣旨を尊重しつつ、この制度を再検討し、結論を得ていく。
- ・学生が自学自習をする習慣を持てるような種々の対策を講じ、単位の実質化（講義科目1単位は、15時間の授業等の教室内活動と30時間の教室外活動）を目指していく。そのためのIT等の環境整備にも努めていく。
- ・教育内容・方法に関する特色ある工夫・試みを更に充実発展させ、学生が自ら将来の目標を発見し、それを確かなものにする努力を支援していく。